

深ぼり！あわら市の蓮如さん伝説① 白鹿の案内 隠された蓮如さんの布教戦略

一般社団法人京都アジア文化交流協会代表理事 田井野章浩

今回は吉崎七不思議のひとつ、「白鹿の案内」伝説を紹介します。

文明3年（1471）7月27日、本願寺の末寺である加賀の二俣本泉寺をあとにした蓮如さんは、弟子の法敬坊ほうきょうぼうと慶聞坊きょうもんぼうを伴い、布教の新天地となる吉崎を目指します。細呂木ののこぎり坂近くにさしかかった時、道の真ん中に白鹿が寝ていました。

白鹿は蓮如さんの姿を見るや、むくっと起き上がり、蓮如さんの衣の袖をくわえ、こちらへと言わんばかりに案内します。驚いた蓮如さんでしたが、白鹿の案内によって山道を抜けると、目の前に北潟湖や吉崎の湊が見え出しました。そして、鹿島の森に近づくと、不思議にも白鹿の姿が消えて白髪の老人が現れます。老人は「久しくお待ちしていました。この身は鹿島の森に住む鹿島大明神です。この吉崎の地で阿弥陀仏の教えをお広めください」と蓮如さんに告げるとふっとその姿を消してしまいました。

また、江戸時代に著された『真宗懐古鈔』では、最後のくだりが異なります。鹿島明神の化身は白髪の老人ではなく、老僧と描き、樹下の石の座を蓮如さんにゆずり、「ここは過去の諸仏の転法輪（てんぼうりん）の地で、御堂を建てれば真宗繁昌は疑いない」と告げました。蓮如さんが「どなたですか」とたずねると、「私は親鸞聖人の直弟子で、釈信海と申す」といって姿が消えました。しかし、弟子たちにはこの僧の姿も見えず、話すのも聞こえず、蓮如さんがひとりごとを言うのであやしく思ったと伝えています。

いずれの伝説も蓮如さんの吉崎布教を鹿島明神も待ち望んでいたという点で共通していますが、ここからが「深ぼり！あわら市の蓮如伝説」です。鹿島明神との因縁話は、親鸞聖人にまでさかのぼります。聖人が越後を出て、稲田西念寺（茨城県笠間市）で布教していた際、大勢の門徒の中に白髪の老人の姿がありました。100日もの間、毎日欠かさず聖人のもとに通い続けた老人は「私を弟子に加えてください」と申し出ます。聖人は快諾して法名「釈信海」を与えると、老人は喜びのあまり、鹿島にある七つの井戸（鹿島七ツ井）のうち、神原の井戸を聖人に寄進しようと、稲田草庵の地面を2、3度杖で叩きます。すると、忽然と清水が湧きだしたそうです。

後日、老人は鹿島明神の化身ではないかと人々が噂したことから、鹿島神宮宮司の片岡信親が戸帳を開いて見ると、そこには「釈信海」という法名が書かれてありました。驚いた宮司の信親も聖人の弟子になり、鹿島門徒という門徒集団を作って聖人を支えました。

この伝承によると、鹿島明神はすでに親鸞聖人の弟子であり、蓮如さんを案内した白鹿＝鹿島明神＝聖人の弟子となった「釈信海」とつながります。つまり、聖人に帰依した鹿

島明神が、子孫の蓮如さんの北陸布教を待ちわび、道中の案内人を務めたというストーリーにしているのです。

ここには、蓮如さんの北陸布教に於ける重要な戦略が隠されています。それは「親鸞聖人の教義は、法主である私のもとにしか存在しない」と、血統による聖人との一体性を強調したことが盛り込まれていることです。吉崎時代の蓮如さんは、聖人と自身の連座絵像を数多く発出します。聖人を上部、自身を下部に接近して描き、親鸞聖人の血脈が蓮如さんに直結していることを視覚面で補強しました。

その背景には北陸で勢力を持つ真宗高田派との対決がありました。高田派は親鸞聖人の門弟たちが法脈によって作った教団で、聖人の血を引く子孫はいません。そこで、蓮如さんは聖人につながる血統を武器に、自分こそが聖人の嫡流であり、仏法を正しく継いでいる唯一の者という理論を以て、高田派との差別化を図ったのでした。

この伝承には、もう一つの仕掛けがあります。白鹿が蓮如さんを待っていたのは、のこぎり坂でした。この坂は親鸞聖人が越後流罪の時の通り路で、承元元年（1207）2月、越前の門徒がこの坂で聖人を見送り、その別れを次の歌にしたためたとの伝承が残ります。

「音に聞く のこぎり坂をひきわかれ 身の行くすゑ（え）は ころほそろぎ」。

さらには、これらの伝承のプロローグまで存在するのです。吉崎布教の35年前に叔父である興福寺・大乘院門跡の経覚きょうかくの下で修学していた際、自身のルーツである藤原氏の氏神を祀る奈良の春日大社を参詣し、布教の成功を祈願すると、夢枕に春日明神が現れ、「この松の葉が落ちるところがそなたの有縁の地」と告げたと言います。

舞台は、春日明神の夢のお告げに始まり、親鸞聖人が通ったのこぎり坂、そこで、聖人に帰依した鹿島明神の化身・白鹿が吉崎に案内するという、念の入った話です。吉崎七不思議「白鹿の案内」には、蓮如さんによる「血と法」の優位性を掲げた布教戦略に基づく3つの仕掛けが込められていました。なお、この白鹿の頭骨は、吉崎西別院の法宝物として境内の博物館で展示されています。



白鹿頭骨（吉崎西別院蔵）